



1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	(仮称)新琴似1条12丁目商業施設計画 物販棟 新築工事		階数	1
建設地	北海道札幌市北区新琴似1条11丁目115番2の内,12丁目118番1の内		構造	S造
用途地域	第1種低層住居専用地域,第1種住居地域		平均居住人員	691 人
建物用途	物販店		年間使用時間	4,745 時間/年(想定値)
竣工年	2020年2月	竣工	評価の段階	実施設計段階評価
敷地面積	5,456 m ²		評価の実施日	2019年8月1日
建築面積	3,000 m ²		作成者	菊池 俊一郎
延床面積	2,995 m ²		確認日	
			確認者	

「配慮シート」に
外観パースを張り付けて下さい。

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE = 1.0 ★★★★★ B+ S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★	標準計算 ①参照値 100% ②建築物の取組み 81% ③上記+②以外のオンサイト手法 81% ④上記+オフサイト手法 81% (kg-CO₂/年・m²)	
2-4 一次エネルギー消費量の評価 建物全体の[BEI][BEIm]= 0.80		

2-5 中項目の評価(バーチャート)			
Q 環境品質			
Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.1	Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.3	Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.6	Q のスコア= 3.0
LR 環境負荷低減性			
LR1 エネルギー LR1のスコア= 2.9	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 2.9	LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.0	LR のスコア= 2.9

3 設計上の配慮事項			
総合 大店立地法必要台数を大幅に上回る駐車台数・駐輪場台数を確保し、荷捌き車両の専用通路をすることで周辺渋滞の軽減に努めた。		A 省エネルギー 外皮性能の向上に配慮し、外壁の断熱性を高めた。 エントランスに庇を設置する事により日射の影響の低減に努めた。 LED照明を採用する事によりエネルギー消費の低減に努めた。	
B 省資源等 省水型の衛生設備を使う事で、水資源の低減に努めた。	C 緑化 道路境界・隣地境界際に緑地帯を設ける事で環境・街並みに配慮した。	D 雪処理 大店立地法必要台数を上回る駐車台数を確保する事で、堆積スペースを確保している。 屋上に落雪緩和金物を設置する事で、落雪防止に努めた。	

4 ほかの認証・評価制度の利用			
(財)建築環境・省エネルギー機構のCASBEE認証	-	BELS認証	-
上記以外の認証・評価制度の利用		LEED認証	-

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

CASBEE札幌2016(ver.1.4)
(仮称)新琴似1条12丁目商業施設計画 物販棟 新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト: CASBEE札幌2016 (ver.1.4)

スコアシート		実施設計段階					
配慮項目	重点 評価項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分 評価点	建物全体・共用部分 重み 係数	住居・宿泊部分 評価点	住居・宿泊部分 重み 係数	全体
Q 建築物の環境品質							3.0
Q1 室内環境				0.40		-	3.1
1 音環境			2.6	0.15	-	-	2.6
1.1 室内騒音レベル			3.0	0.40	-	-	
1.2 遮音			3.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能			3.0	1.00	-	-	
2 界壁遮音性能			-	-	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-	-	-	-	
1.3 吸音			1.0	0.20	-	-	
2 温熱環境			3.8	0.35	-	-	3.8
2.1 室温制御			4.6	0.50	-	-	
1 室温		各室の使用用途により温度管理が必要なため、ゾーン別制御を採用している。	5.0	0.50	-	-	
2 外皮性能	省エネ		3.0	0.17	-	-	
3 ゾーン別制御性		各テナントごとにて温度設定・営業時間が異なることを想定し、ゾーン別制御を採用している。	5.0	0.33	-	-	
2.2 湿度制御			3.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式			3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境			3.0	0.25	-	-	3.0
3.1 昼光利用			3.0	0.50	-	-	
1 昼光率			-	-	-	-	
2 方位別開口			-	-	-	-	
3 昼光利用設備	省エネ		3.0	1.00	-	-	
3.2 グレア対策			-	-	-	-	
1 昼光制御	省エネ		-	-	-	-	
2 映り込み対策			-	-	-	-	
3.3 照度			-	-	-	-	
3.4 照明制御			3.0	0.50	-	-	
4 空気質環境			2.7	0.25	-	-	2.7
4.1 発生源対策			3.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質			3.0	1.00	-	-	
4.2 換気			2.0	0.30	-	-	
1 換気量			1.0	0.50	-	-	
2 自然換気性能			-	-	-	-	
3 取り入れ外気への配慮			3.0	0.50	-	-	
4.3 運用管理			3.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視			1.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御		建物全体を禁煙としている	5.0	0.50	-	-	

Q2 サービス性能			—	0.30	-	-	3.3
1 機能性			3.5	0.40	-	-	3.5
1.1 機能性・使いやすさ			4.0	0.40	-	-	
1 広さ・収納性				-	-	-	
2 高度情報通信設備対応				-	-	-	
3 バリアフリー計画		移動等円滑化基準に適合している。 さっぽろしんごとに店に届出済(2019/07/30(通知19135))	4.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性			3.0	0.30	-	-	
1 広さ感・景観 (天井高)		断面図より、売場天井高さH3400としている。	4.0	0.33	-	-	
2 リフレッシュスペース			2.0	0.33	-	-	
3 内装計画			3.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理			3.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計			3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		諸設備の維持管理を共用部にて行えるプランにしている。	4.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性			2.9	0.30	-	-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振			3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能			3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数			2.8	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数			3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上材の補修必要間隔		省資源	2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上材の更新必要間隔		省資源	2.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		省資源 維持管理・耐用性を考えて、屋外露出ダクトは高耐食性亜鉛メッキ鋼板を使用している。	4.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		省資源 屋内給水管にはステンレス鋼管を使用。	4.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		省資源	2.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性			2.8	0.20	-	-	
1 空調・換気設備			3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備			3.0	0.20	-	-	
3 電気設備			3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法			3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備			2.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.6	0.30	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
1 階高のゆとり		断面図より階高4.850	5.0	0.60	-	-	
2 空間の形状・自由さ		平面図より、 $255.2+0/2994.6=0.08522$	5.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.6
1 生物環境の保全と創出	緑化		1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮	緑化	配置図・断面図より、周辺が住宅街ということもあり、建物高さを従来の店舗よりも低くし、敷地境界沿いに植栽をし周辺環境に配慮した。	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	雪処理		3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	省資源 緑化		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	2.9
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	2.9
1 建物外皮の熱負荷抑制	省エネ	BPI _m = 0.82	4.8	0.20	-	-	4.8
2 自然エネルギー利用	省エネ		3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化	省エネ	[BEI][BEI _m] = 0.80 -	3.0	0.50	-	-	3.0
4 効率的運用			1.0	0.20	-	-	1.0
集合住宅以外の評価			1.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング	省エネ		-	-	-	-	
4.2 運用管理体制	省エネ		1.0	1.00	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング	省エネ		-	-	-	-	
4.2 運用管理体制	省エネ		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.9
1 水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.8	0.60	-	-	2.8
2.1 材料使用量の削減	省資源	主要構造躯体の鉄骨をSS400を採用している。	2.0	0.14	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	省資源		-	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	省資源	-	3.0	0.29	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	省資源	-	1.0	0.29	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	省資源		-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	省資源	仕上表より、躯体と仕上材が容易に分別出来る建材を使用している。	5.0	0.29	-	-	

3 汚染物質含有材料の使用回避				3.2	0.20	-	-	3.2
3.1 有害物質を含まない材料の使用		有害物質を含まない建材を使用している。		5.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				2.5	0.70	-	-	
1 消火剤	省資源			-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	省資源			2.0	0.50	-	-	
3 冷媒	省資源			3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮	省資源	ライフサイクルCO2を97%に抑える事により、地球温暖化へ配慮した。		3.7	0.33	-	-	3.7
2 地域環境への配慮				2.7	0.33	-	-	2.7
2.1 大気汚染防止	省資源			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	省資源 緑化 雪処理			2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				4.0	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	省資源	札幌市雨水流出抑制に関する指導要綱の対象敷地であり、必要対策以上の抑制を行っている。		4.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制		出入口ごとに右折入庫・出庫を禁止している。		5.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制	省資源 雪処理	冬季は駐車場の一部を雪の堆積場所としている。		4.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮				2.5	0.33	-	-	2.5
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	
1 騒音				3.0	0.33	-	-	
2 振動				3.0	0.33	-	-	
3 悪臭				3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				1.6	0.40	-	-	
1 風害の抑制				1.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制					-	-	-	
3 日照阻害の抑制				3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制				3.7	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		JIS照明基準等の照度を元に照明器具の設計を行い、LEDを採用する事で省エネにも努めている。		4.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30	-	-	

Comprehensive Assessment System for Building Environmental Efficiency

CASBEE札幌



重点項目 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2016(ver.1.4)

1 建物概要				
建物名称	(仮称)新琴似1条12丁目商業施設計画 物販棟 新築工事			
建物用途	物販店			
延床面積	2,994.6	m ²	BEE	1.0
			BEEランク	B ⁺

2 重点項目への取り組み			レーダーチャート
地球温暖化対策	最重点項目 省エネルギー	★★★★★	省エネルギー 性能 5.0 4.0 3.0 2.0 1.0 0.0 雪処理 省資源等への取組 緑化への取組 ★1=スコア(最低点~最高点)20%以下 ★2=スコア(最低点~最高点)20%~40%以下 ★3=スコア(最低点~最高点)40%~60%以下 ★4=スコア(最低点~最高点)60%~80%以下 ★5=スコア(最低点~最高点)80%以上
	省資源等	★★★★★	
	緑化	★★★★★	
	雪処理	★★★★★	

3. 重点項目のCASBEEスコア									
A 省エネルギー		(	最高点	23.1	最低点	6.4	)	合計	13.7点 / 23.1点
Q1 温熱環境	スコア	0.4	/0.6	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア	3.8	/4.0		
Q1 光・視環境	スコア	1.5	/2.5	LR1 自然エネルギー利用	スコア	1.2	/2.0		
				LR1 設備システムの高効率化	スコア	6.0	/10.0		
				LR1 効率的運用	スコア	0.8	/4.0		
B 省資源等		(	最高点	23.7	最低点	7.5	)	合計	13.8点 / 23.7点
Q2 耐用性・信頼性	スコア	0.6	/1.1	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア	5.2	/9.0		
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.9	/2.3	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア	1.1	/1.9		
				LR3 地球温暖化への配慮	スコア	3.7	/5.0		
				LR3 地域環境への配慮	スコア	2.3	/4.4		
C 緑化		(	最高点	15.3	最低点	3.1	)	合計	7.6点 / 15.3点
Q3 生物環境の保全と創出	スコア	0.9	/4.5	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.0	/2.5		
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア	4.8	/6.0						
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.9	/2.3						
D 雪処理		(	最高点	3.0	最低点	0	)	合計	3.0点 / 3.0点
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.0	/1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア	2.0	/2.0		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■重点項目の最高点は、各評価項目でレベル5で評価された場合の点数

■重点項目の最低点は、各評価項目でレベル1で評価された場合の点数